慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	福澤諭吉と近代美術 / 関連年譜 (1834-1915)
Sub Title	Chronology
Author	前田, 典子(Maeda, Noriko)
Publisher	慶應義塾大学アート・ センター
Publication year	2009
Jtitle	Booklet Vol.17, (2009.) ,p.176- 190
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	FUKUZAWA Yukichi 4
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA11893297-00000017-0176

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

福澤諭吉と近代美術／関連年譜（1834—1915）

前田典子編

凡例：

・事項の冒頭に印のないものは福澤諭吉、○印は慶應義塾、* は日本国内、** は外国に関する出来事を示す。

・月は明治5年12月3日（明治6年1月1日）の改暦までは旧暦、それ以降は太陽暦を用い表記した。また旧暦と太陽暦は年間を通じて一致するわけではないが、長く一致する方を表示している。

1834　天保5年	12月福澤諭吉、大阪中津藩蔵屋敷に生まれる（12月12日は西暦1835年1月10日）。諭吉の名は、誕生の日に、父百助がかねてから欲していて、ようやく手に入れた『上論条例』という書名に因んだもの。幼時より叔父中村術平の養子となり中村姓を名乗ったが、福澤の家で生活する。
1836　天保7年	6月父百助が病死。母順、兄三之助、姉礼・婉・鐘と中津に帰る。兄三之助が家督を相続。家格は供小姓に下げられる。
1839　天保10年	* 渡辺崋山、高野長英ら蛮社の獄。 ** ダゲールの銀板写真ダゲレオタイプ発表。
1847　弘化4年	この頃から服部五郎兵衛、つぎに野本真城、最も長く白石常人について漢学を学ぶ。また立身新流の居合いを中村庄兵衛に学ぶ。
1848　嘉永元年	** マルクス『共産党宣言』。フランス2月革命。ドイツ3月革命。ラファエル前派結成。
1849　嘉永2年	* アメリカ軍艦長崎に来航。葛飾北斎没。
1851　嘉永4年	* 中浜万次郎アメリカ船にて琉球に。 ** 第1回ロンドン万国博覧会に600万人。パクストン、水晶宮建設。
1852　嘉永5年	* ロシア軍艦下田に来航。 ** パリに百貨店ボン・マルシェ開店。
1853　嘉永6年	* ペリー浦賀来航。 ** オスマンによるパリ再開発計画。
1854　安政元年	2月兄三之助の勧めにより蘭学を志し、長崎を出る。中津藩家老奥平壱岐を頼り長崎桶屋町光永寺に下宿。さらに砲術家山本物次郎の書生となり、傍らオランダ通詞や蘭方医からもオランダ語を習う。長崎滞在中は禁酒す

る。＊安政和親条約調印（米仏蘭露）、日本開国。村上英俊『三語便覧』（仏英蘭の対照字典）。＊＊ロンドンに立体写真会社創立。

1855	安政2年（20歳）	長崎を去らねばならなくなり、江戸に行くつもりで大阪に来たとき、兄三之助に勧められて、3月緒方洪庵の適塾に入門、兄の住む中津藩蔵屋敷から通学。＊安政の大地震後、瓦版が流行（品川屋久助、両国屋庄基地など地震方角付、各1万部）。幕府、洋学所（のちの蕃書調所）を設置、長崎に海軍伝習所を建てる。＊＊パリ万国博覧会（新発見のエジプト美術、初の写真展）。クールベ《画家のアトリエ》完成、「レアリスム」宣言。
1856	安政3年	2、3月腸チフスにかかるが、洪庵の手厚い看護で全快する。9月兄三之助が病死したとの知らせをうけ、中津に帰る。供小姓の役として城門の警備にあたる。帰郷中、奥平壱岐からペルの築城書を借りてひそかにその写本をつくる。11月頃借金返済のため蔵書や書画を売り、大坂に出て適塾の内塾生となる。＊吉田松蔭、松下村塾で講義開始。蕃書調所創設。
1857	安政4年	適塾の塾頭となる。適塾にてワンダーベルトの物理学概説書を書写し、電気についてファラデーの学説を知る。＊講武所内に軍艦教授所開設。蕃書調所に絵図調方設置、絵図調出役として川上冬崖が西洋画の研究指導を担当。＊＊欧米に世界恐慌。
1858	安政5年	藩命で江戸に出ることになり、まず中津に帰って母に別れを告げ、適塾から岡本周吉（後の古川節蔵）を伴って10月中旬に江戸に着く。○10月福澤、江戸築地鉄砲洲の中津藩中屋敷に蘭学の家塾（のちの慶應義塾）を開く。最初の塾長に岡本周吉。＊日米修好通商条約調印。幕府、長崎に英語伝習所設立。＊＊英国、インドを支配。
1859	安政6年	新たに開港した横浜を見物し、オランダ語が実地に役立たないことを知り、英学に転向し辞書を頼りに独学で学び始める。2月「ペル築城書」翻訳を米村鐵太郎に贈呈。＊神奈川・横浜・長崎・函館開港。安政の大獄。英国駐日総領事オールコック来日、美術・工芸品を収集し、62年ロンドン万博に出品。＊＊ダーウィン『種の起源』。
1860	万延元年	1月軍艦奉行木村摂津守喜毅の従者として幕府軍艦咸臨丸で浦賀を出航。37日間の難航の後、2月にサンフランシスコに到着。ウェブスター辞書を購入。閏3月サンフランシスコを出港し、ハワイに寄り5月に帰国。8月『増訂華英通語』出版。11月中旬外国奉行支配翻訳御用

		御雇となり、20人扶持手当金15両が支給される。 *井伊大老暗殺。日本の輸出は前年の9万ドルから47万ドルに急増。蕃書調所での英語など学科新設。幕府、アメリカへ使節派遣。ワーグマン来日。 **ブルクハルト『イタリア・ルネサンスの文化』。
1861	文久元年	冬、中津藩士土岐太郎八の次女錦と結婚する。築地鉄砲洲から芝新銭座の借家に移る。一説には万延元年の冬ともいわれる。 *幕府、横浜に修文館（のちの英学所）を設置。下岡蓮杖、横浜で写真館開業。絵図調方、画学局に改称し、前田又四郎・川上冬崖が画学出役となる。歌川国芳没。 **アメリカ南北戦争（〜1865）。バッハオーフェン『母権論』。
1862	文久2年	1月幕府遣欧使節の翻訳方として渡欧。長崎を出港し、香港、シンガポール、セイロン島、スエズ、カイロ、アレキサンドリア、マルタ島を経てマルセイユ着。以後フランス、イギリス、オランダ、プロイセン、ロシア、ポルトガルを歴訪する。12月品川に上陸。 *緒方洪庵、西洋医学所頭取兼任。生麦事件。幕府、オランダへ留学生派遣。蕃書調所より『官板バタビヤ新聞』発行（初の新聞）。佐久間象山ら編集『英和対訳袖珍辞書』（初版200部）。黒岩涙香『萬朝報』。蕃書調所、一橋門外に移転し、洋書調所に改称、高橋由一が入所。 **ロンドン万国博覧会に企業2万9千社が出品、オールコック、F. ハワード・ワイズ大尉により、日本美術品が初めて展示される。
1863	文久3年	6月恩師緒方洪庵死去。秋再び、中津藩中屋敷内に戻る。10月長男一太郎生まれる。○春頃、蘭学塾から英学塾に転向する。本格的な学塾体制に整えるため、入門帳を設ける（のちの「慶應義塾入社帳」）。 *薩英戦争。幕府、洋書調所を開成所に改組。 **パリ、落選者展、マネ《草上の昼食》。
1864	元治元年	3月江戸を発ち中津に帰省し、6年ぶりで母と会う。滞在2ヵ月。5月未刊の『西洋事情』写本が流布。6月江戸に戻る。その際学塾経営を補佐してくれる人材育成のため、中津藩より同藩士子弟小幡篤次郎ら6名を伴い、入塾させる。10月外国奉行支配翻訳方として幕府に出仕（禄高100俵、勤役中50俵足高。手当金15両）。 *ジョセフ・ヒコ（浜田彦蔵）、民間初の邦字新聞『海外新聞』創刊。長州征伐。村上英俊『仏語明要』（初の仏和辞書）。
1865	慶応元年 （30歳）	公務の傍ら新聞雑誌などを翻訳して諸藩の留守居役に買ってもらい、その収入で塾生の学費をまかなう。5月「唐人往来」執筆。7月「海岸防禦論」翻訳。9月次男捨

		次郎生まれる。 *『ジャパン・タイムス』発刊。高橋由一「画学局的言」。 **フランス『19世紀ラルース大百科事典』全15巻。
1866	慶応2年	8月幕府の留学生募集に際し、門下生和田慎二郎を福澤英之助と改名させ、諭吉の弟と称してイギリスへ留学させる。9月長州征伐に関する建白書を提出。秋、刀剣を売り払う。12月『西洋事情』初編出版。冬『雷銃操法』巻之一出版。 *徳川慶喜、将軍となる。海外渡航禁止令の廃止。海外留学許可。高橋由一、ワーグマンに師事。 **プロイセン・オーストリア戦争。
1867	慶応3年	1月幕府の軍艦受取委員となり再渡米。6月米国で教科書用の英書を多数購入し、また仙台藩から預かった鉄砲買入れ費用で英語の書籍を購入して持ち帰る。このことが誤解を生み、帰国後小野友五郎らの申し立てにより謹慎を命ぜられる（10月下旬まで）。10月『西洋旅案内』出版。11月『条約十一国記』出版。12月芝新銭座の有馬家中屋敷を355両で買い取る。『西洋衣食住』出版。 *大政奉還。企業5万社が参加したパリ万国博覧会に徳川昭武ら一行、出発。北斎、国貞らの浮世絵、磁器、水晶細工を出品。『西洋雑誌』（柳川春三編）創刊。ヘボン編訳『和英語林集成』（ヘボン式ローマ字）。 **パリ万国博覧会に高橋由一が出品。マルクス『資本論』第1巻。
1868	慶応4年 （明治元年）	2月芝新銭座に新居が完成。3月幕府からの御使番任命を断る。4月長女里が生まれる。8月中頃、6月に提出していた退身願が許可され、幕臣を辞める。10月偽版出版を禁ずる願書を新政府に提出。6月以降、明治新政府よりたびたび出仕を命ぜられたが、固辞する。夏以降『雷銃操法』巻之二翻訳。秋『兵士懐中便覧』翻訳。秋から冬『訓蒙窮理図解』翻訳。 ○芝新銭座に再度移転し、慶應義塾と命名。「慶應義塾之記」を発表し、建学の精神を明らかにするとともに、入社規則、日課などを制定する。日課は七曜制を採用する。5月上野の戦いの最中も、福澤はウェーランド経済書の講義を続ける。 *明治維新。戊辰戦争。東京と改称。五箇条の御誓文。神仏分離令。浦上天主教徒処刑。初の洋風建築、築地ホテル館開業。五姓田芳柳、横浜に五姓田塾開設。
1869	明治2年	2月叔父中村術平歿。春『洋兵明鑑』『掌中万国一覧』出版。3月『英国議事院談』出版。夏『清英交際始末』出版。8月頃中津藩から受けていた江戸での手当6人扶持も辞退し、藩士から退身。以後、生涯官職には就かない。11月出版事業を開始（福澤屋諭吉名義で書物問屋組合に加入）。冬『世界国尽』出版。 ○慶應義塾、授業料の徴収を始める。 **戊辰戦争終結、版籍奉還、大学

		設置。東京〜横浜間の電信創業。横浜に丸屋商社設立（のちの丸善）。川上冬崖が御徒町に日本最初の洋画塾聴香読画館開設。 ** アメリカ A&P 社、チェーンストアと通信販売を展開。ミル『女性解放論』。トルストイ『戦争と平和』。
1870	明治 3 年	5 月中旬発疹チフスにかかり、一時重篤になるが、初秋になり回復する。7 月次女房が生まれる。冬東京府の依頼を受け西洋の警察制度を取り調べ、報告書を出す。9 月病後保養のため初めて家族と熱海温泉にゆく。10 月『西洋事情』二編出版。閏 10 月東京を発ち中津に行き母を迎えて帰京する。11 月中津を出発するにあたり「中津留別之書」を認める。 ○慶應義塾のために 11 月三田の島原藩邸を借り受け、土地の払い下げに成功する。 * 最初の日刊紙『横浜毎日新聞』創刊。日本初の写真画報『極東』創刊。大学南校に物産局設置。工部省設置。 ** 普仏戦争。ニューヨーク・メトロポリタン美術館。
1871	明治 4 年	1 月三田へ転居。夏『啓蒙手習之文』出版。10 月一太郎、捨て次郎に「ひゞのをしへ」を書き与える。11 月中津市学校設立。 ○ 3 月慶應義塾は三田の島原藩中屋敷に移転。4 月講堂が落成し、正規の授業開始。「慶應義塾社中之約束」「学業勤惰表」を発行。 ** 文部省設置。新貨条例。廃藩置県。岩倉具視一行、欧米へ出発。大学南校物産局、招魂社境内で物産会開催。太政官、古器旧物保存方を布告。工部省に工学寮設置。文部省に博物局設置、湯島大成殿を博物局観覧場とする。京都博覧会開催（最初の博覧会）。 ** パリ・コミューン。シュリーマン、トロヤの発掘。
1872	明治 5 年	2 月頃『学問のすゝめ』初編出版。4 月京阪神を経て中津に旅行。5 月中津市学校視察。夏秋頃『童訓教草』初編、二編出版。9 月『かたわ娘』出版。 ○6 月初めて外国人教師カロザスを雇う。8 月慶應義塾出版局、慶應義塾衣服仕立局設置。 * 新橋―横浜間鉄道開通式。電信開始。太陽暦採用。学制発布。書籍館（のちの国立国会図書館）。『東京日日新聞』創刊。ウオートレス設計、銀座煉瓦街着工。太政官正院内に「墺国博覧会事務局」設置。澳国博覧会理事官佐野常民が、ウィーン万国博覧会参加の目的の一つとして、博物館の創建と博覧会の開催を上申。万博に際し、そのプログラムを翻訳した『墺国博覧会規則区分目録』の中に、初めて「美術」という言葉が用いられる。湯島聖堂博覧会（政府が主催した最初の官設博覧会）開催。会場だった湯島聖堂大成殿を「博物館」としたのが、日本における博物館の最初。第 1 回京都博覧会（京都博覧会社主催）。関西の古社寺の宝物調査が行われ、正倉院が 36 年ぶりに開封される。

1873	明治6年	1月『改暦弁』出版。6月『帳合之法』初編出版。7月『文字之教』第一出版。8月三女俊が生まれる。11月竜源寺に「福澤氏記念之碑」を建立する。『文字之教』第二・附録、『学問のすすめ』二編出版。12月『学問のすゝめ』三編出版。 ○慶應義塾、10月医学所開設（13年廃止）。11月大阪慶應義塾開業。 *徴兵令公布。明治6年政変。ウィーン万国博覧会に出品参加。アメリカ人モルレー来日、文部省顧問着任。渋沢栄一、第一銀行開行。太政官、文部省博物館・書籍館・博物局・小石川薬園を博覧会事務局の所管とする。博覧会事務局、山下門内博物館にて「博覧会」開催。高橋由一、日本横浜町に画塾天絵楼（のち天絵社）開設。内務省設置。 **クック社「ヨーロッパ鉄道時刻表」発刊。
1874	明治7年	1月『学問のすゝめ』四、五編出版。2月『民間雑誌』創刊（翌年六月廃刊）。『学問のすゝめ』六編出版。3月『学問のすゝめ』七編出版。4月『学問のすゝめ』八編出版。5月母順歿。6月『学問のすゝめ』九編出版。『学問のすゝめ』十編、『帳合之法』二編出版。7月『学問のすゝめ』十一編出版。12月『学問のすゝめ』十二、十三編出版。英国人宣教師ショー（A. C. Shaw）を子どもの家庭教師として三田に住まわせ、家族ぐるみで交流する。『会議弁』このころ出版か。 ○和田義郎、義塾構内に家塾を開く（13年頃幼稚舎と改称）。2月京都慶應義塾開業（約1年で閉校）。4月前年の卒業制度制定を受け、第1回の卒業生7名が誕生。6月三田演説会発会式。「民撰議院設立建白書」。 *佐賀の乱。台湾出兵。『朝野新聞』、『読売新聞』創刊。博物館でウィーン万博からの持ち帰り品を中心とする博覧会開催。松尾儀助、若井兼三郎、起立工商会社設立。太政官正院が大学の建言に基づき、古器旧物保存方の布告を出す。国沢新九郎帰国、のちに彰技堂開設。 **パリのナダール写真館で第1回印象派展覧会、モネ《印象・日の出》出品。
1875	明治8年 （40歳）	3月『学問のすゝめ』十四編出版。8月『文明論之概略』発売。 ○5月三田演説館開館（昭和42年重要文化財指定）。7月大阪慶應義塾を徳島に移転し、徳島慶應義塾と改称（9年11月閉校）。 *「漸次立憲政体樹立の詔」。新聞紙条例等公布。錦絵新聞、多数発刊。キヨソネ、大蔵省紙幣寮着任、凹版技術導入。博覧会事務局に併合されていた博物館・書籍館・博物局・小石川薬園が分離、再び文部省の所管となる。博覧会事務局、「博物館」と改称し、内務省所管となる。文部省所管の博物館、「東京博物館」と改称。『澳国博覧会報告書』成る。東大寺正倉院の勅封宝物が内務省博物館の管理下となる。国沢新九郎、新橋竹川町で日本最初の洋画展覧会開催。

1876　明治 9 年	3 月四女滝が生まれる。英国人女性宣教師ホア（Alice Hoar）を自宅 2 階に住まわせる。4 月『学者安心論』出版。5, 6 月頃長男一太郎、次男捨次郎を伴い京阪地方に遊ぶ。7 月「福澤諭吉子女之伝」を起草する。『学問のすゝめ』十五編出版。8 月『学問のすゝめ』十六編出版。9 月『家庭叢談』創刊。『学問のすゝめ』十七編出版。 ○福澤、「慶應義塾改革の議案」を社中に示す。11 月義塾内に集会所として万来舎を設ける。暮に福澤の勧めで協議社が結成され、演説討論の練習に励む。のちに対抗して猶興社が結成される。 * クラーク来日、札幌農学校に着任。『大阪日報』創刊。内務省所管の博物館のみ「博物館」と称し、他庁設置のものは地名や他の文字を冠することとする。内務省所管博物館を「博物局」と改称。フォンタネージ、ラグーザ、カペレッティ、イタリアから来日。法隆寺宝物が皇室に献納される。工部省工部寮に工部美術学校開設（「美術学校」を名乗ったはじめ）。浅井忠、山本芳翠ら入校。 ** ベル、電話機発明。
1877　明治 10 年	5 月「旧藩情」執筆、刊行はしなかったが写本で流布する。7 月西郷隆盛の処分に関する建白書を提出。10 月「丁丑公論」脱稿、当時は政局を慮り発表せず。11 月『分権論』出版。12 月『民間経済録』初編出版。 * 西南戦争。東京大学設置（東京開成学校と東京医学校が合併）。文部省所管東京博物館、「教育博物館」と改称（館長手島精一）。工部寮、工部大学校と改称され、コンドルを造家学教師として迎える。第 1 回内国勧業博覧会開催（農商務省主催）、工部省営繕局により「美術館」が農業館・工業館などと並び一つの産業館として作られ、これが「美術館」という名称の最初になる。社寺局設置。 ** エジソン、蓄音機。
1878　明治 11 年	1 月『福澤文集』一編出版。3 月『民間雑誌』を日刊とする（5 月廃刊）。5 月『通貨論』出版。9 月『通俗民権論』、『通俗国権論』出版。12 月第 1 回府県会議員選挙で、芝区から第一位で東京府会議員に選出される。11 月には維持資金借用を大隈重信など政府要人に以来。 ○慶應義塾、この年創立 20 年記念祝賀会を開催。 * 工部大学校開設。第 3 回パリ万国博覧会で美術工芸品を展示即売。フェノロサ来日、東京大学文学部教授となる。フォンタネージ、工部美術学校教師を辞任、後任としてフェレッティが就任。フェレッティを不服とし、小山正太郎、浅井忠、印藤真楯、松岡寿、柳源吉ら工部美術学校を退校、十一会を結成し、洋画研究所を開く。
1879　明治 12 年	1 月東京学士会院（今の日本学士院）が設立され、その初代会長に選ばれる。東京府会の臨時会で副議長に選ば

れたが、本会議で辞任を申し出る。3月五女光が生まれる。『通俗国権論』二編出版。7月藤田茂吉、箕浦勝人の名前で郵便報知新聞に「国会論」を発表。8月『福澤文集』二編、『国会論』、『民情一新』出版。 ○3月塾監局に寄せ書き帳である「道聴途説」を備える。この頃慶應義塾維持のための資金を政府から借り入れる運動を取りやめる。10月徴兵令が改正され、私立学校中唯一認められていた徴兵免除の特典を失う。12月夜間法律科設置。 ** 東京学士会院設立。教育令公布。『東京経済雑誌』創刊。植木枝盛『民権自由論』。『朝日新聞』創刊。東京海上保険会社。龍池会創立。古社寺調査が初めて行われる（大蔵省印刷局）。文部省内に音楽取調掛設置。 ** エジソン、白熱電球。イプセン『人形の家』。

1880　明治13年

1月福澤や小幡篤次郎の発意で共同結社・交詢社を設立。東京府会議員を辞す。2月『交詢雑誌』創刊。8月『民間経済録』二編出版。12月大隈重信、伊藤博文、井上馨と会見し、3人より政府の機関新聞紙の引き受けを頼まれる（翌年1月政府機関紙発行を受諾）。 ○5月湯島昌平館で初の同窓会開催。11月経営危機打開のため、「慶應義塾維持法案」発表。 * 国会期成同盟。『新約聖書』日本語訳。フェレッティ解雇、その後任としてサン・ジョバンニ就任。内務省博物局が観古美術会（最初の官設美術展）開催（第2回以降は龍池会が主催）。高橋由一、日本最初の美術雑誌『臥遊席珍』創刊。龍池会の機関誌『工芸叢談』創刊。古社寺保存内規制定。京都府画学校設置。 ** エンゲルス『空想から科学へ』。

1881　明治14年

4月交詢社私擬憲法案発表。7月三男三八が生まれる。9月『時事小言』出版。10月いわゆる明治14年の政変により嫌疑を受け、事の真相を記した「明治辛巳紀事」を作成し秘蔵する。 ○1月「慶應義塾仮憲法」制定、社頭に福澤、塾長に浜野定四郎が就任。6月朝鮮留学生柳定秀、兪吉濬が入学、以後明治期に約250名の朝鮮人留学生入学。明治14年の政変により義塾出身者が多数官界を追われる。 * 明治14年の政変。開拓使官有物払い下げ問題。「明治23年国会開設」の勅令。自由党結成。阿部泰蔵、明治生命保険会社創立。第2回内国勧業博覧会開催。農商務省新設。内務省博物局およびその博物館、農商務省に移管。教育博物館、「東京教育博物館」と改称。東京大学で外山正一（翌年からフェノロサ）による「審美学」講義（日本初めて美学が正式に教授される）。川村清雄、イタリアより帰国。 ** ドストエフスキー没。

1882　明治15年

3月慶應義塾出版社から『時事新報』創刊。5月『時事大勢論』出版。『帝室論』出版。11月『兵論』、『徳育如何』出版。 * ソウルの日本公使館、襲撃される。立憲

改進党結成。上野公園に博物館（現在の東京国立博物館、農商務省所管）開館。東京専門学校（のちの早稲田大学）創立。伊沢修二『教育学』。フェノロサ、龍池会で日本画擁護の公演を行い、それが後に『美術真説』として出版される。小山正太郎の「書ハ美術ナラズ」（『東洋学芸雑誌』第8，9，10号）に対して、岡倉天心が同誌に「書ハ美術ナラズノ論ヲ読ム」を掲載して論争となる。工部美術学校彫刻学科廃止、ラグーザ解雇。第1回内国絵画共進会（農商務省主催）開催。

1883　明治16年

2月『学問之独立』出版。6月長男一太郎、次男捨次郎の二子がアメリカに留学。7月四男大四郎が生まれる。○4月福澤、義塾の歴史を記した「慶應義塾紀事」を執筆。＊言論取締り強化（新聞紙・出版条例）。コンドル設計の鹿鳴館で婦人慈善会（バザー）開催。工部美術学校廃止。龍池会主催の第1回日本美術縦覧会がパリで開催される。『龍池会報告』創刊。中江兆民、E. ヴェロン『L'esthétique』の邦訳である『維氏美学』（上冊）出版、初めて「美学」という語が用いられる。フェノロサ『欧州美術沿革略史』出版。＊＊ワーグナー没。ガウディ、サグラダ・ファミリア聖堂建造に着手。

1884　明治17年

1月『全国徴兵論』出版。6月『通俗外交論』出版。12月甲申事変に失敗した朝鮮独立党の金玉均、朴泳孝らを広尾狸蕎麦近くの別邸にかくまう。○慶應義塾出版社の社名を時事新報社に改める。＊森鷗外ドイツ留学。フェノロサら鑑画会結成。天絵学舎（天絵楼の後身）廃校。第2回日本美術縦覧会（龍池会主催）がパリで開催。岡倉天心・フェノロサ、京阪地方の古社寺歴訪を命じられ、法隆寺夢殿を開扉。文部省に図画調査会設置。東洋絵画会設置。中江兆民訳『維氏美学』（下冊）出版。フェノロサ、第3回鑑画会例会において「美術史の原理」を講演。小山正太郎とフェノロサ・天心ら、図画調査会で美術教育における鉛筆画・毛筆画の選択を巡る論争をおこす。＊＊アンデパンダン展創立。

1885　明治18年
（50歳）

3月『時事新報』に「脱亜論」を執筆（第2次世界大戦後俄かに有名になる）。4、5月家族総勢20名で箱根塔ノ澤福住に滞在する。6月「日本婦人論」を『時事新報』に発表。8月『日本婦人論後編」出版。12月『士人処世論』、『品行論』出版。○塾生たちが洋服を着るようになり、またペンの記章をつけ始める。＊内閣制。工部大学校、工部省廃止により文部省に移管。高橋由一、美術館設置の建白書提出。文部省、図画取調掛を設置し美術学校創立の準備を進める。

1886　明治19年

3月全国漫遊を思い立ち、まず東海道旅行に出かけ、関西にまで足を伸ばして、4月に帰京。5月茨城地方を旅

行。6月『男女交際論』出版。「男女交際余論」も『時事新報』に発表。 ○三田山上にて初めて運動会を行う。 *文部大臣森有礼、学校制度改革に着手し、学校令公布。北里柴三郎、ドイツ留学でコッホに師事。農商務省博物館、宮内省に移管。フェノロサ、岡倉天心、美術取調委員として美術教育施設視察のため渡欧（翌年10月帰国）。ゴットフリート・ヴァグナー（ワグネル）、龍池会で「美術ノ要用」と題する講演を行う。黒田清輝、久米桂一郎が相次いでラファエル・コランに師事。坪内逍遥「美とは何ぞや」。 **第8回印象派展。モレアス、フィガロ紙上で「象徴主義宣言」。

1887　明治20年

2月養子福澤桃介アメリカ留学に出発。3月新富座にてはじめて芝居を見る。4月伊藤博文の仮装舞踏会への招待を断る。8、9月家族とともに箱根や鎌倉などで保養。以後毎夏のならいとなる。 ○11月小泉信吉が総長となり、義塾の体制の改革はじまる。 *ビゴー漫画雑誌『トバエ』創刊。東京府工芸品共進会、上野で開催。細川潤次郎、裸体画をめぐる講演を龍池会で行う（「裸体ノ彫像画像ヲ論ズ」）。東京美術学校設置の勅令、同時に東京音楽学校、東京盲唖学校設置。龍池会、日本美術協会と改称。 **円盤型レコードの開発。

1888　明治21年

1月井上角五郎が関係した朝鮮問題で家宅捜索を受ける。3月井上角五郎の事件に証人として裁判所に赴く。『日本男子論』出版。10月『尊王論』出版。11月長男一太郎、次男捨次郎がアメリカ留学をおえて帰朝。 ○春に三田ベースボール倶楽部発足。4月演説館で和洋音楽会を開く。 *『東京朝日新聞』創刊。宮内省博物館、図書館寮の附属施設となる。日本美術協会、美術家・工芸家の優遇保護を宮内大臣に上申。宮内省に工芸員が置かれる。宮内省に臨時全国宝物取調局設置。東京美術学校規則規定。 **イーストマン、コダック・ロールフィルム・カメラ完成。パリでビング、『芸術の日本』創刊。

1889　明治22年

6月東京市名誉職参事会員を固辞。9月全家族を伴い京阪地方を旅行する。 ○1月慶應義塾資本金募集開始。8月「慶應義塾規約」制定。10月第1回評議員会開催。『塾員名簿』刊行開始。 *大日本帝国憲法。東海道線全通開通。東京美術学校開校。市島金治と小川三知、「日本画」をめぐる論争をおこす。博物館、帝国博物館と改称。十一会の中心メンバーである小山正太郎、浅井忠、原田直次郎、山本芳翠、松岡壽ら、明治美術会を結成。東京教育博物館、高等師範学校附属東京教育博物館となる。岡倉天心・高橋健三、美術雑誌『国華』を創刊。明治美術会第1回展開催。京都府画学校、京都市画学校となる。東京美術学校で「美学及美術史」の講義がフェノロサにより行われる（官立学校で「美術史」が教えられ

		た最初)。東京大学「審美学」講義、「審美学美術史」と改称される。 ** パリ万国博覧会でエッフェル塔。
1890	明治 23 年	「尚商立国論」を執筆。この中で「独立自尊」という言葉を初めて使う。 ○1 月大学部発足。ハーバード大学より外人主任教師を招き文学・理財・法律の 3 科を設ける。8 月義塾より、私学初の海外派遣留学生として池田成彬ハーバード大学へ留学。 * 第 1 回総選挙。第 1 回帝国議会会議。教育勅語発布。東京―横浜間で電話交換開始。徳富蘇峰『国民新聞』創刊。京都美術協会創立、『京都美術雑誌』発行。外山正一と森鷗外・林忠正、「日本絵画ノ未来」論争をおこす。第 3 回内国勧業博覧会開催、洋画の出品が許可される。岡倉天心、東京美術学校長に就任。帝室技芸員制度設置。岡倉天心、フェノロサに代わって東京美術学校の「美学及美術史」の講義を担当。また 1892 年にかけて「日本美術史」と「西洋美術史」の講義も担当。 ** ジェームズ『心理学原理』。フレーザー『金枝篇』。ゴッホ没。
1891	明治 24 年	2 月次男捨次郎の神戸での結婚式に参列。11 月「瘠我慢之説」脱稿。 ○ 5 月商業学校開校。 * 明治火災保険会社設立(東京海上火災保険の前身)。起立工商会社解散。明治美術会の月例会で裸体画問題が議論される。帝国博物館、『日本美術史』の編纂を計画。京都市画学校、京都市美術学校と改称。日本青年絵画協会結成。大西祝、ショーペンハウエルの「おかしみ」論の分析である「滑稽の本性」発表。東京大学「審美学美術史」講義、「美学美術史」と改称。坪内逍遥と森鷗外、没理想論争をおこす。
1892	明治 25 年	4、5 月再び京阪山陽地方を旅行。6 月『国会の前途・国会難局の由来・治安小言・地租論』出版。11 月北里柴三郎を援けて伝染病研究所の設立に尽力。 ○慶應義塾に 5 月体育会創設。 * 黒岩涙香『萬朝報』創刊。明治美術会、浅井忠、長沼守敬らを教授として絵画彫刻の教場を開設。シカゴ万国博覧会に対し、洋画不出品措置が取られる。森鷗外、慶應義塾で「審美学」の講義を始める。月岡芳年没。
1893	明治 26 年	5 月『実業論』出版。9 月北里を支援し日本初のサナトリウム広尾土筆ヶ岡養生園を開設させる。 * 明治美術会第 5 回展開催、林忠正収集のシスレー、ギョーマンらの印象派の風景画が紹介される。シカゴ万国博覧会開催、日本の「美術」作品が万博において初めて美術館内に展示される。黒田清輝帰国。東京大学に美学講座が設置される。
1894	明治 27 年	2 月長男一太郎、次男捨次郎の二子をつれて中津に行

		く。耶馬渓の競秀峰が売りに出されていることを知り、景観保護のために買い求める。8月日清戦争に際し、戦費として1万円を拠出。 ○11月頃から塾旗として三色旗が使用される。 *日清戦争。京都市美術学校、京都市美術工芸学校と改称し彫刻科を新設。明治美術会、明治美術学校と改称。明治美術会第6回展開催、黒田清輝の《朝妝》出品。 **ドレフェス事件。エジソン、キネトスコープ（活動写真と和訳）開発。
1895	明治28年（60歳）	3月妻と子を伴い広島に行く。12月日清戦争のため、1年遅れて福澤の還暦祝賀会開催。 ○5月朝鮮から百余名の留学生が慶應義塾に入学する。8月留学生の受け入れについて、朝鮮政府と契約を結ぶ。 *日清講和条約締結。第4回内国勧業博覧会開催、黒田清輝の《朝妝》をめぐり裸体画論争が起きる。帝国奈良博物館開館。 **レントゲン、X線発見。マルコーニ、無線電信開発。リュミエール兄弟、映画上映。ウェルズ『タイムマシン』。
1896	明治29年	4月家族や大工・植木屋同伴で伊勢に詣る。11月家族と信越上州方面へ旅行。 ○9月慶應義塾大学部高等科および普通科の在学生に徴兵猶予の特典が認められる。福澤、「慶應義塾之目的」を示す。 *日本青年絵画協会が発展解消、日本絵画協会結成。臨時全国宝物取調局が発展解消する形で、古社寺保存会設置。明治美術学校の授業停止、その後閉鎖。黒田清輝、久米桂一郎、藤島武二、岡田三郎助、和田英作ら白馬会創設。東京美術学校に西洋画科設置。 **第1回オリンピック大会、アテネで開催。
1897	明治30年	7月『福翁百話』出版。11月家族と京阪山陽旅行へ旅行（最後の家族旅行）。 ○8月「慶應義塾基本金募集の趣旨」発表（2月募集開始）。 *馬車鉄道全盛（98社、年間2703万人輸送）。菅原白龍ら、日本南画会結成。帝国京都博物館開館。古社寺保存法が内務省管轄で制定、国宝の指定を開始。大西祝「近世美学思想一斑」。 **クリムトらウィーン分離派結成。
1898	明治31年	2月『福澤先生浮世談』出版。5月「福翁自伝」脱稿。『福澤全集』全5巻発刊。広尾狸蕎麦近くの別邸で開かれた園遊会に伊藤博文が参加、14年以来の断交を解消。9月脳溢血を発す（12月までにほぼ回復）。 ○3月『慶應義塾学報』を発行（大正4年『三田評論』と改題。昭和18年休刊、26年復刊）。一貫教育制度を樹立。大学科に政治学部新設。 *第一次大隈内閣（初の政党内閣）。幸徳秋水、片山潜ら、社会主義研究会結成。安田靫彦ら紫紅会を設立。岡倉天心、東京美術学校校長を辞任（美校騒動）。黒田清輝、東京美術学校教授

		に就任。浅井忠、東京美術学校教授に就任。天心、日本美術院創設。塩田力蔵と大村西崖、「美術工芸」というジャンル名を巡り論争。高山樗牛、「歴史画題論」を『太陽』に発表、坪内逍遥、綱島梁川らとの間で歴史画論争が始まる。 ** ハワード、田園都市運動。
1899	明治 32 年	11 月病中見舞いを受けた人々を広尾別邸に招き園遊会を催す。『女大学評論・新女大学』出版。 * 私立学校令制定。『中央公論』創刊。東京美術学校、彫刻科中に塑造科設置。根本正、安藤亀太郎が「美術奨励ニ関スル建議案」を第一四通常議会に提出。高山樗牛『近世美學』。森鷗外・大村西崖共同編訳『審美綱領』出版。大西祝「審美新説一斑」。
1900	明治 33 年	2 月「修身要領」発表、独立自尊を標榜する義塾の道徳綱領というべきもの。5 月著訳教育の功労により皇室から金 5 万円を下賜され、直ちにこれを慶應義塾基本金に寄附する。8 月 2 度目の脳溢血発症。12 月世紀送迎会に出席し「独立自尊迎新世紀」の書幅を示す。○5 月大学部分科制廃止。第 1 回世紀送迎会を行う。 * 津田梅子、女子英学塾（のちの津田塾大学）創立。夏目漱石、英国留学へ。パリ万国博覧会。万博に際して博覧会事務局が “Histoire de L’art du Japon” をパリで出版、翌年日本でも『稿本日本帝国美術略史』として帝室博物館より出版される。帝国博物館官制により帝国博物館を東京帝室博物館と改称。京都・奈良の帝国博物館も京都帝室博物館・奈良帝室博物館と改称。森鷗外『審美新説』。東京大学に世界で初めて「美学」の講座開設。 ** ミシュラン社旅行ガイド発売。ニーチェ没。フロイト『夢判断』。
1901	明治 34 年	1 月 25 日脳溢血症再発。2 月 3 日午後 10 時 50 分、三田慶應義塾内の自邸にて歿（享年 66 歳）。8 日菩提寺の麻布山善福寺で葬儀。東京府下大崎村本願寺内に葬られる。4 月『福翁百余話』出版。5 月『福澤先生哀悼録』（慶應義塾学報臨時増刊）出版。『明治十年丁丑公論・瘠我慢の説』出版。 ○ 3 月慶應義塾維持会設立。5 月大学部分科制復活。 * 足尾鉱毒事件で田中正造が天皇に直訴。京都市美術工芸学校、京都市立芸術工芸学校と改称。藤田文蔵、女子美術学校を本郷に開校（現女子美術大学）。明治美術会解散、満谷国四郎らが太平洋画会結成。横井時冬『日本絵画史』出版（一人の日本人の手で体系的に記述された最初の美術史）。『稿本日本帝国美術略史』出版（最初の官制日本美術史）。 ** ヴィクトリア女王逝去。英国グラモフォン社によるシャリアピンのレコード製作。
1902	明治 35 年	6 月アメリカスタンフォード大学校主夫人、福澤の業績

		に対し500ドルを寄附。 * 日英同盟。京都高等工芸学校設立。『美術新報』創刊。 ** アメリカに映画常設館開業。
1903	明治36年	2月福澤諭吉3回忌記念会開催。 ○11月綱町運動場にて第1回慶早野球試合が行われる。 * 新橋―品川間電車運転開始。第5回内国勧業博覧会開催。聖護院洋画研究所開所。 ** ライト兄弟初飛行。サロン・ドートンヌ創設。
1904	明治37年	○3月塾歌制定（旧塾歌、作詞角田勤一郎（浩々）・作曲金須嘉之進）。5月隅田川にて第1回慶早レガッタ開催。 * 日露戦争。岡倉天心、ボストン美術館顧問として渡米。谷中に太平洋画会研究所開設。三宅克己と鹿子木孟郎、水彩画論争をおこす。 ** ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』。
1905	明治38年	○4月商工学校開校。 * ポーツマス条約調印。第二次日韓協約。鹿子木孟郎、水彩画講習所設立。 ** アインシュタイン特殊相対性理論。キルヒナーら、ブリュッケ創設。ヴォークセル、マティスらの作品をフォーヴと呼ぶ。
1906	明治39年	* 日本社会党結成。岡倉天心『茶の本』。浅井忠、聖護院洋画研究所を発展させ関西美術院設立。岡倉天心、日本美術院規則を改める。日本美術院日本画部、茨城県五浦に移転。
1907	明治40年	2月福澤諭吉7回忌記念会開催。 ○4月創立50年記念式典を三田の大学部校舎講堂で挙行。『慶應義塾五十年史』刊行。5月組織を財団法人に改める。 * 足尾銅山争議。東京勧業博覧会。明治美術会の統合を標榜した官設展が開催されることとなり、天心・雅邦・大観・観山が文展審査員となる。第1回文部省美術展覧会（文展）開催。岡倉天心を会長として国画玉成会結成。三越呉服店が美術部を開設。 ** ドイツ工作連盟で工業規格論争。ピカソ《アヴィニョンの女たち》。
1908	明治41年	* 日本人最初のブラジル社会契約移民781人。国画玉成会が文展への不出品を決定、文展に対抗して国画玉成会第1回展を開催。第2回文展開催。 **T型フォード。
1909	明治42年	○4月開校記念日（4月23日）を制定。 *『スバル』創刊、森鷗外が未来派を紹介。表慶館開館。国画玉成会自然消滅。第3回文展開催。京都市立美術工芸学校の上級学校として、京都市立絵画専門学校創設。 ** マリネッティ「未来派宣言」。

1910	明治 43 年	○永井荷風『三田文学』創刊。 *大逆事件。柳田国男『遠野物語』。官制の日本美術史である『特別保護建造物及国宝帖』出版。『白樺』創刊、ゴッホら後期印象派の作品が紹介され、日本画家にも大きな影響を与える。第 4 回文展開催。黒田清輝、帝室技芸員となる。土田麦僊ら黒猫会結成。 **孫文、中国革命同盟会。
1911	明治 44 年	1 月福澤家にて誕生日を陽暦に改め、1 月 10 日を誕生日とする。 ○4 月慶應義塾と第三高等学校でわが国初のラグビー対校試合を行う。 *平塚雷鳥、青踏社結成。工場法公布。白馬会解散。第 5 回文展開催。
1912	明治 45 年 （大正元年）	○1 月慶應義塾で第 1 回福澤先生誕生記念会を行う。5 月「創立五十年紀念図書館」開館式を挙行（昭和 44 年重要文化財指定）。 *明治天皇逝去、大正と改元。美濃部達吉憲法論争。文展規則改正。第 6 回文展開催、日本画部に二科制敷かれる。岡田三郎助、藤島武二、本郷洋画研究所を設立。岸田劉生、清宮彬、萬鐵五郎、斎藤与里らヒュウザン会結成。 **タイタニック号沈没。教育家モンテッソリ、学校運動を創始。ピカソ、コラージュ作品を創作。
1913	大正 2 年	**アーモリー・ショウ開催、フランス近代美術がアメリカで紹介される。
1914	大正 3 年	○1 月慶應義塾における福澤先生記念日をこれまでの命日から誕生日に変更。 *第一次世界大戦勃発。東京大正博覧会（初の飛行機展示、分離派建築、真空掃除機）。辰野金吾、東京駅設計。山田耕作、ベルリンから帰国。黒田清輝ら国民美術協会創設。フュウザン会解散。岡倉天心没。東京大学に美術史学講座設置。
1914	大正 3 年	*日本美術院再興。山下新太郎、石井柏亭ら二科会結成。今村紫紅ら赤曜会結成。
1915	大正 4 年	*6 月大講堂開館式挙行。